



12月15日（日）二十六夜山ハイキングに出かけました。

二十六夜山という山は、山梨県に2箇所あります。都留市と秋山村です。今回登ったのは、秋山村の二十六夜山です。そもそも、“二十六夜”という名前は、平安時代から盛んに行われた“二十六夜月待ち信仰”によるもので、旧正月と7月の26日の夜半、月の出を待ってこれを拝むと幸運を得ることができるということなのです。さぞや立派な大きく丸いお月さんかと思ったら、二十六夜の月は三日月程度ということ。しかも、姿を現すのは明け方。それまでは、お酒を飲んでいるようです。ちょうど元旦の初日の出と同じです。

ところで、今回は、まさかの雪山ハイキング。月曜日に降った雪が山ではまだまだ残り、少々驚きながら、少し怖くて。でも、こんなことは、1年に1回あるかどうか？もしかしたら、あればラッキー！それこそ“二十六夜山”にふさわしいお日柄でした。

参加者は、宮部忠和さんと町田行弘のふたりです。



誰もいない...！

朝7時過ぎ、JR八王子駅横浜線ホームには、誰も来ていません。集合時間は7時30分ですから“そんなこともあるか”と思いつながら、しかし、少し不安がよぎります。加藤夫妻は参加できないというメールが届いていました。それにしても、この時間に小野さんがいないのが不思議です。今年の冬は思いの外寒いので風邪でもひいたのかな？誰も来なかったらどうしようかな？先月、気管支ぜんそくで入院して以来のハイキングです。体調チェックのために行ってみよう！そんなことを考えているところへ宮部忠和さんが現れました。奥さんはまだ膝の状態が良くないため不参加です。約束の7時30分まで待って、ふたりで出かけることにします。

7時37分の高尾行きに乗り、高尾で河口湖行きの電車に乗り換えて、上野原で降ります。ここから8時28分の無生野行きのバスに乗ります。このバスロータリーは「生藤山ハイキング」の時に利用していますが、相変わらず狭いロータリーにハイカーがたくさん。私たちが乗り込んだバスはすぐに満員になって、臨時バスが出ることとなり、団体のハイカーが臨時バスに移動しました。おかげでゆっくり座ることができました。

路面凍結、山は雪景色

バスにゆられて約45分、下尾崎バス停で降ります。一緒に乗り合わせたハイカーもみんなここで降りました。二十六夜山は人気のある山なんだなあ。この団体のあとをついていけばいい、と思ったのですが、彼らは入念な準備のためか(?)なかなか出発しません。いずれ抜かれることと、先に歩き出します。標識に従って歩き出すと、道路が凍結しています。凍結した舗装路が終わり、山道に入ると一面雪景色です。少し不安になりますが、先にハイカーが歩いた形跡があります。行けるところまで行ってみることにします。学生時代から登山やスキーを楽しんでいる宮部さんは、この雪をとくには気にしていないよう



で、先をどんどん歩いて行きました。景色は寒々としていますが、15分も歩くと体が暖まり、休憩がてら上着を脱ぎます。

例年なら12月に雪が積もるほど降ることはありません。しかも、二十六夜山は標高972メートルの低山です。こんなところで、雪山の雰囲気を味わえるというのはラッキーです。上りの勾配も急なところは少なく、尾根を歩いているとクロスカン트리スキーを楽しんでいるよう。雪遊びをする子供のような開放的気分で歩いていると、ほとんど平らな広場に出ました。



早すぎる山頂到着

遠くから人の話し声が聞こえます。話し声が近づきアツという間に20人近くの団体が現れました。彼らは、二十六夜山山頂から戻ったところだったのです。そして、上野原駅からの臨時バスで来た団体に違いありません。ここから下りということと、アイゼンを装着して準備しています。

ということは、このあたりに「二十六夜塔」が建っているはず。探してみると、高さ50センチほどの塔が雪にころがって存在しました。なんで倒れたのかな？下山準備中の人混みを掻き分け(?)私たちも山頂へ向かいます。約5分で二十六夜山山頂到着。雪に覆われた少しのスペースの山頂で、遠くに南アルプスを見ることができます。ここでお弁当にしたいところですが、まだ11時前、ちょっと早い。ふたりで記念撮影をして、山を下りることにします。山頂から二十六夜塔へ戻り、そ





こから、浜沢方面へ下ります。途中で、中年夫婦とすれ違います。旦那のほうは山に慣れているようですが、奥さんはそうでもないらしく、少し遅れがち。そんな私たちも、慣れない雪道の下りに想像以上に悪戦苦闘しています。アイゼンをつけるほどではないと思うのですが(…) それよりも、そんなもの持っていないのですから仕方ありません。

まさに転ばぬ先の杖

前の月曜日に降った雪とは思えないような踏み心地で、凍っていないし、溶けてもいないのです。それでも、急斜面は滑りますし、雪に覆われているので、その下の様子がわからなくて慎重になります。

10分ほど下ると分岐があり、「秋山村浜沢」の標識がさしている方は右側、左側は巻道のようにも見えます。安全のため冒険はしないで、右へ進みます。少し上って再び下り。この下りは雪が多く、しかも急です。宮部さんはステッキをうまく使いながらどんどん下ります。町田は、滑らないように慎重です。9月の「沼津アルプス」で転倒してカメラを壊したこともあるし、先月は入院したし、厄年ですから。もしかしたら、小野さ



んは雪を警戒したのかもしれない。さきほどの分岐から15分、再び分岐がありました。どうやら左の道を進むとここで合流するようです。ここから、すこし上りが始まります。陽当たりの良い松林の斜面で団体ハイカーがお弁当をひろげています。なるほど、いい場所を選んだなあ。しかし、私たちが入り込む余地は無さそうで、先へ進みます。滑る斜面と闘いながら、相変わらず宮部さんが先を歩きます。

立ったままでお弁当

12時も近づき、道が広がった場所で昼食にしました。雪に覆われているので立ち食いです。宮部さんは手作り(奥さんが作った)弁当。町田は、お湯を沸かしてカップラーメンを食べます。食事をしていると、先程の団体が近づいて来ました。先頭のリーダーと思われる方に「ここからどういうルートなのですか？」と尋ねると「立野峠と通って梁川へ向かいます」とのこと。元気だなあ。しかも雪道なのに。彼らの通ったあとはアイゼンで雪を蹴散らし、土が見えています。少し歩きやすくなります。しばらくして、山頂付近ですれ違った中年夫婦が通り過ぎました。12時30分出発。





無理せず、ビールで乾杯！

予想通り、団体の通った道は歩きやすく、出てきた土をたどります。すぐに夫婦を追い越し、20分もすると、別荘風の民家が現れ、キャンプ場の中を通り、バス通りに出ました。浜沢バス停はバス通りを右へ50メートルほどの場所にありました。時刻は12時50分。登山用のバスの時刻表では、上野原駅行きのバスは14時8分です。まわりにお店はありません。しかも、バス停の時刻表は古いままで、何が正しいのかわかりません。どうしよう？ 中年夫婦がバス停にやってきて、古い時刻表を見て、旦那が「梁川まで行こう」と歩き出します。疲れた顔の奥さんは、その気がなさそうについて行きました。そのあとすぐに「釣場」行きのバスが到着しました。とりあえず、このバスに乗って、釣場へ移動することにします。発車したバスから、うらやましそうにこちらを見ている奥さんが見えました。でも、ここに桜井さんがいたら絶対に納得しないだろうなあ。

このバスは浜沢12時54分のバスで町田が持っていた時刻表にあります。釣場到着13時7分。上野原駅へ向かうバスは、釣場を14時24分に出ます。釣り堀の休憩所でビールを飲みながら時間をつぶすことにしました。

時間が来て、バス停に向かいます。浜沢方面からのバスが来ましたが、ここ止まり。すぐに上野原方面からバスが来て、折り返すこととなります。行きは直通でしたが、どうやらここが中継点になっているようです。山で会った中年夫婦は乗っていませんでした。あのまま梁川に向かったんだ。がんばるなあ、ちょっとかわいそうな気もするが…。私たちの物足りなさ(実際はそうでもないが)は、次のパワーとすることに。



